

2020 3/15号

《発行》 神照地区地域づくり協議会 《事務局》 神照まちづくりセンター TEL 62-0265 FAX 64-2752 神照地域の人口 (令和2年1月1日現在)

> 9,918人 女 9.884 人 合計 19,802人

高齢者と園児とのふれあい交

11月7日(木)[高 齢者と園児とのふれあ い交流会」が神照まち づくりセンターで開か れました。

神照幼稚園児、北保 育園児と主に一人暮ら しの高齢者など200人 以上の人に参加いただ きました。

午前中は、園児たち の歌や紙芝居・人形劇 などで楽しみ、園児が 帰った後の午後は、田



上浩二さんの歌謡ショーで懐かしい演歌なども聞きな がら、参加者同士で交流も深めておられました。

終了時には、皆さん満足そうな様子でスタッフとも 声を交えながら帰られました。

かみてるこどもの



12月7日(土)神照まちづくりセンターで本年度 5回目の「かみてるこども広場」が開催されました。

今回は凧作りに挑戦しました。初めて作る子達も 多くみんな苦戦しながらでしたが、完成した時はと ても嬉しそうでした。

また、お昼ごはんは「クリームシチュー」を食べ ました。美味しいと言ってたくさんおかわりする子 がいました。



12月22日(日) 青少年育成会議と子ども学び座でしめ縄 づくりを開催しました。2人ペアになり、わらを編んでいきま す。ねじってねじって力がいります。

頑張った後には、スタッフに作っていただいた「ぜんざい」 をみんなで食べました。

今年も良い年を迎えることが出来ました。

11月30日(土) 更生保護女性会の皆さん にマカロニを使ってのクリスマスリース作り を教えていただきました。

どれもこれも色々な案がいっぱいの素敵な リースになりました。



人権・福祉・青少年のつどい

11月30日(土)「人権・福祉・青少年のつどい」を開催しました。

「凸凹迷コンビ」のお2人をお招きし、「地域の見近な人権」についてご講演いただき、94名の参加がありました。

伝言ゲームでは、最初の言葉がガラリと変わって しまい、笑いの中にも「うわさ話」の怖さを感じま した。



健康ウォーキング



神照まちづくりセンターから新庄寺町・泉町・国 友町を回る約5kmのコースで、途中神照寺では国宝 の華籠や寺院内を見学し、国友鉄砲資料館では多く の大小の鉄砲やビデオを見ることができました。

当日は素晴らしい秋空にも恵まれ、気持ちよく楽しくみんなで歩くこともでき、参加者の健康維持増進にも大いに役立ったことと思います。

皆さんのご意見も聞きながら、来年も実施できればと考えています。

ご参加をお待ちしています。

ほうべのひろば



12月19日(木)未就園児と保護者を対象とした「ほっぺのひろば」でお楽しみ会を開催しました。

写真のように、バルーン(大きな布)の下にみんなで入ったり、カサカサと音をたてたりして遊びました。また、クリスマスツリーや帽子にシールを貼って飾り

つけもして、楽 しいクリスマス 会となりました。

今後の開催予 定は、4ページ をご覧ください。



神ゆうくらぶウォーキング



グを11月6日に実施しました。

今年は近江八幡市まで車で行き、八幡堀や商人屋敷、 ロープウエイで八幡山にも登りました。

天候にも恵まれ、八幡山での石の階段は少々きつい ものがありましたが、いい疲れもある中、みんな楽し い思い出の秋の一日となりました。

尚、神ゆうくらぶでは、会員募集も行っておられます。 申込は、まちづくりセンター(Tel62-0265)まで。

各自治会での文化祭

本年も多くの自治会では、11月3日の文化の日を中心として、 自治会館などで文化祭が開催されました。それぞれに色々と工夫 され、人々の目を楽しませてくれました。その一部を紹介します。









神照まちづくりセンター利用者アンケートについて

神照まちづくりセンターでは、これまで市民の皆様に快適に施設をご利用いただけるように努めてきましたが、皆様のご意見を伺い今後もさらにサービスを向上させるため、昨年末にアンケート調査を実施しました。〈調査実施期間 令和元年11月1日~12月28日〉

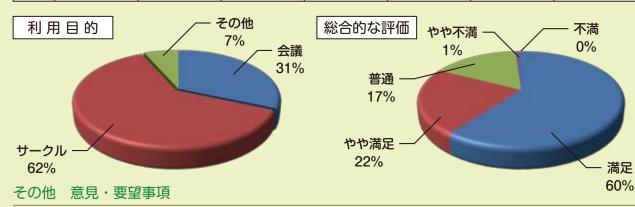
このアンケートの調査結果がまとまりましたので、報告します。

アンケート調査回答者数 426人

○住所別利用者数

単位:人

	神照地区	旧長浜地区	びわ地区	浅井地区	その他(市内)	その他(市外)	合 計
男	47	13	6	3	10	6	85
女	137	107	17	18	38	24	341
合計	184	120	23	21	48	30	426



- ① 使用時間の単位を半時間に見直しを希望 ② 生涯学習的なものの企画をしてほしい
- ③ まちセンの休館日を他のまちセンと違うようにしてほしい
- ④ ホームページもいいが、もっと気軽に情報が入手できる方法を望む 他
- ※昨年度の要望事項より、本年度自販機を設置しました。

~神照ふるさと紀行~ 浜もりめんの歴史について

私たちの住む湖北地方の地場産業の一つとして有名なものに「浜ちりめん」があります。今回の「神 照ふるさと紀行」では、神照地域における「浜ちりめん」の歴史を調べました。

日本における絹織物産業は、平安時代末から鎌倉時代初め頃に西陣において起こったとされてお り、湖北地方においても京・大阪の大消費地に近いことから戦国時代末には、農家の余業として養蚕、 製糸、製織がなされ、「田舎絹」として生産されていたと思われます。

そして、天正年間(1573年~92年)に渡来した明人(中国人)から、泉州堺の織匠に縮緬の製法 が教授され、京都西陣から、丹後半島の加悦(京都府)や岐阜にもその製法が伝えられ、その後、 湖北地方にも伝わったそうです。難波村(びわ町)の中村林助、乾庄九郎両氏が湖北地方における「浜 ちりめん」の創始者とされています。 … (参照:長浜市史3~町人の時代より)

私たち広報委員は、有限会社吉正織物工場様(口分田町)にお伺いして、代表取締役の吉田和生(現 浜縮緬工業協同組合理事長)様より、神照地域での浜ちりめんの歴史についてお話をお聞きしました。

この地域で昔から織屋が多くあったのは、口分田町、八幡中山町、神照町付近だそうです。これ らの町の近くには、大井川が流れています。織物には多くのきれいな水が必要であり、大井川など の川の水がその役割を果たしたのだと思われます。また、大井川の上流の姉川付近では蚕の餌とな る良質な桑の葉が多く取れました。このようなことから、この地域は元々、絹織物の生産に向いた 土地柄であり、そして先人たちの並々ならぬ努力により、質の高い「浜ちりめんブランド」が確立され、 私たちの生活を支える地場産業として発展しました。

工場では織物ができるまでの細かくて大変な作業を見学させていただき、また、吉田社長の織物 への熱い思いをお聞きすると、過去と現在の生活が織物と通じて繋がっていることに気づかされ、 あらためて先人への尊敬の念と感謝の気持ちが溢れてきます。

最近、私たちの日常の中で、着物を着ることはめっきり減りましたが、着物は「日常から非日常」 へいざなってくれる大切なアイテムです。

ストレス社会の中でちょっと一呼吸するため、たまには、着物を着て町を散策しませんか。 きっと、いつもの風景が、いつもと違うように感じられることでしょう。



▲浜ちりめんの特徴の一つ「しぼ」とは 生地の表面の凸凹のことです。



▲艶やかな「浜ちりめん」の着物 ㈱ヤブウチ様提供

~「ほっぺのひろば」からのご案内~

神照まちづくりセンターでは、未就園児の お子さんを対象に毎月無料で「ほっぺのひろ ば」を開催しています。ぜひ、遊びに来てく ださいね。

(☆イベントの詳細について は、後日回覧にてお知らせい たします。)

《一年間の開催予定》

3月26日(木) 4月23日(木) 5月28日(木)

☆ 6月25日(木) 7月30日(木) ☆ 8月27日(木)

9月24日(木) 10月22日(木) 11月26日(木)

☆12月17日(木)

令和3年1月28日(木) ☆2月25日(木) 3月25日(木)